

# 投映法特論 II

選択 2単位

高梨 利恵子

## 1. 授業の概要(ねらい)

代表的な投映法検査であるロールシャッハテストについて、包括システムを用いて学習する。正確に実施ができ、一通りの解釈ができるようになることを目指す。

ロールシャッハテストの習熟には長い訓練の時間を要する。加えて得られた結果が臨床現場でどれだけ役にたつものになるかは、検査法そのものの知識や技術にとどまらず、関係性をはじめとした臨床心理学のさまざまな知識や経験がかかわっている。このためこの検査の熟達、学習者の臨床家としての成長と一体となって進んでいく。この授業ではそのような学習の最初の一步を着実に踏み出すために、動機づけと方向性を確かなものにすることを目指す。

なお、心理臨床センターにおける検査施行にあたっては、この科目の履習が必要となる。

## 2. 授業の到達目標

- 1) ロールシャッハテストの理論的背景を説明できる。
- 2) 定められた施行法に基づき正確に施行できる。
- 3) 的確にコーディングし結果を得て解釈することができる。
- 4) 得られた結果・解釈をまとめた報告書の書き方について理解できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

コーディングや構造一覧表の作成等の宿題(30%)、コーディングのテスト(40%)、ロールシャッハテスト実習レポート(30%)によって評価する。

## 4. 教科書・参考文献

### 教科書

ジョン・E・エクスナー (著), 中村 紀子 (翻訳), 野田 昌道 (翻訳) ロールシャッハ・テストー包括システムの基礎と解釈の原理 金剛出版

### 参考文献

上里一郎監修 心理アセスメントハンドブック第2版 西村出版

ジョン・E・エクスナー ロールシャッハ・テストワークブック第5版 金剛出版

ジョン・E・エクスナー ロールシャッハの解釈 金剛出版

## 5. 準備学修の内容

コーディングの演習については、宿題を必ず実施の上参加のこと。また、毎回授業前に、前回の授業の復習をしていくこと。

## 6. その他履修上の注意事項

教科書は貸し出すので購入する必要はない。この科目は臨床心理学専攻に特化した科目である。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス「ロールシャッハテストとは」
- 【第2回】 施行法について学ぶ
- 【第3回】 コーディング(反応領域、発達水準)について学ぶ
- 【第4回】 コーディング(決定因、形態水準)について学ぶ
- 【第5回】 コーディング(反応内容、平凡反応)について学ぶ
- 【第6回】 コーディング(特殊スコア)について学ぶ
- 【第7回】 コーディングの練習課題に取り組む
- 【第8回】 小グループに分かれて課題の検討、答え合わせ
- 【第9回】 構造一覧表の作成について学ぶ。翌週までにサンプル課題を完成させる。
- 【第10回】 クラスタ解釈について学ぶ
- 【第11回】 結果報告書の作成について学ぶ
- 【第12回】 予備日(コーディングについての質問、確認)
- 【第13回】 コーディングのテスト
- 【第14回】 テストの答え合わせから、各自が理解できていない点について確認する。理解が不十分な学生は、再テストをする。
- 【第15回】 ロールシャッハテスト実習について(オンライン)